

## 夜間中学とは

戦後の混乱期の中で、生活困窮などの理由から昼間に就労又は家事手伝い等を余儀なくされた学齢生徒が多くいたことから、そうした生徒に義務教育の機会を提供することを目的として設置された。

現在は、不登校等のためにほとんど学校に通えなかった人、また本国やわが国で義務教育を修了していない外国籍の人など様々な背景を持つ生徒の多様な学びを保障している。

※関連法令:義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律

第4章 夜間その他特別な時間において授業を行う学校における就学の機会の提供等  
(就学の機会の提供等) 第14条、(協議会) 第15条



(参考1)年齢別生徒数(令和2年1月1日現在)

年齢	学齢者	16-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-	計
(人)	0	330	341	258	215	181	404	1,729

※日本国籍を有しない者1,384人(80%)

(出典:令和元年度夜間中学等に関する実態調査)

(参考2)未就学者数(\*)の状況

調査実施年	昭和35年	昭和45年	昭和55年	平成2年	平成12年	平成22年
(人)	1,488,300	599,755	308,639	217,605	158,891	128,187

(出典:平成22年国勢調査)

※「未就学者」の定義:ここでいう「未就学者」は、平成22年国勢調査において、在学したことのない人は小学校を中途退学した人とされている12万5,187人(日本国籍は2万2,339人、外国籍7,945人)をいう。したがって、小学校は卒業したが中学校に入學しなかった人や、中学校を中途退学した人の数は含まれていないため、令和2年度調査においては修正見直しの上実施し、今後公表予定。

夜間中学も昼間の中学校と同じ、公立の中学校である。

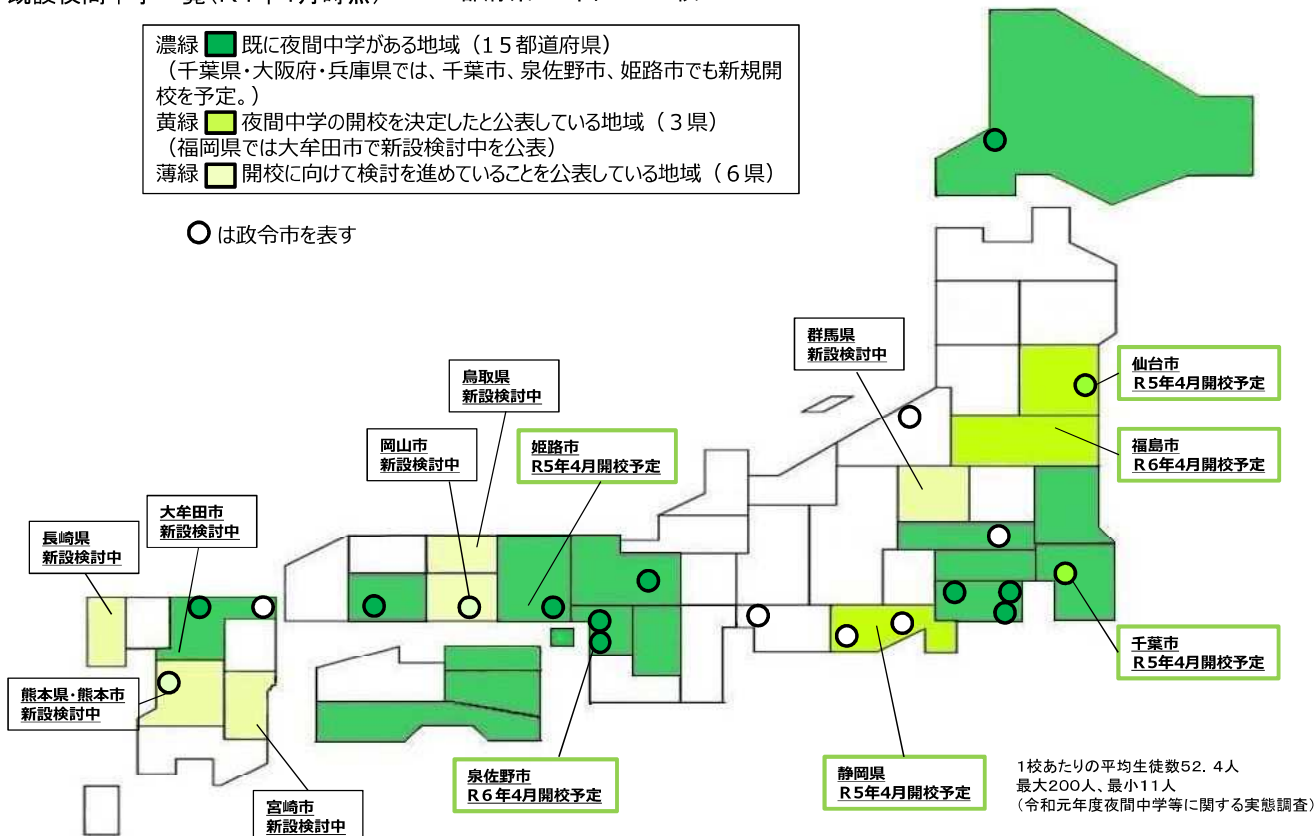
- 授業料は無償
- 週5日間の授業がある
- 教員免許を持っている公立中学校の先生が教える
- 全ての課程を修了すれば中学校卒業となる

# 夜間中学の設置・検討状況①

既設夜間中学一覧(R4年4月時点) 15都府県34市区に40校

- 濃緑 ■ 既に夜間中学がある地域 (15 都道府県)  
(千葉県・大阪府・兵庫県では、千葉市、泉佐野市、姫路市でも新規開校を予定。)
- 黄緑 ■ 夜間中学の開校を決定したと公表している地域 (3 県)  
(福岡県では大牟田市で新設検討中を公表)
- 薄緑 ■ 開校に向けて検討を進めていることを公表している地域 (6 県)

○ は政令市を表す



1校あたりの平均生徒数52.4人  
最大200人、最小11人  
(令和元年度夜間中学等に関する実態調査)

# 夜間中学の設置・検討状況②

都道府県	設置主体	学校名
北海道	札幌市	星友館(せいゆうかん)中学校【令和4年4月開校】
茨城県	常総市	水海道(みつかいどう)中学校
埼玉県	川口市	芝西(しばにし)中学校陽春(ようしゅん)分校
千葉県	市川市	大洲(おおす)中学校
	松戸市	第一(だいいち)中学校みらい分校
東京都	足立区	第四(だいよん)中学校
	荒川区	第九(だいきゅう)中学校
	江戸川区	小松川(こまつがわ)第二中学校
	大田区	糞谷(こうじや)中学校
	葛飾区	双葉(ふたば)中学校
	墨田区	文花(ぶんか)中学校
	世田谷区	三宿(みしゆく)中学校
	八王子市	第五(だigo)中学校
神奈川県	川崎市	西中原(にしなかはら)中学校
	横浜市	蒔田(まいた)中学校
	相模原市	大野南(おおのみなみ)中学校分校【令和4年4月開校】

都道府県	設置主体	学校名
京都府	京都市	洛友(らくゆう)中学校
大阪府	大阪市	天王寺(てんのうじ)中学校
		天満(てんま)中学校
		文(ふみ)の里(さと)中学校
		東生野(ひがしいくの)中学校
	岸和田市	岸城(きしき)中学校
	堺市	殿馬場(とのばば)中学校
	豊中市	第四(だいよん)中学校
	東大阪市	布施(ふせ)中学校
奈良県	守口市	意岐部(おきべ)中学校
	さつき学園	
	八尾市	八尾(やお)中学校
	橿原市	畝傍(うねび)中学校
兵庫県	天理市	北(きた)中学校
	奈良市	春日(かすが)中学校
兵庫県	尼崎市	成良(せいりょう)中学校琴城(きんじょう)分校
	神戸市	丸山(まるやま)中学校西野(にし)の分校 兵庫(ひょうご)中学校北分校
広島県	広島市	観音(かんおん)中学校
		二葉(ふたば)中学校
徳島県	徳島県	徳島県立しらすぎ中学校
高知県	高知県	高知県立高知国際(こうちこくさい)中学校
香川県	三豊市	高瀬(たかせ)中学校【令和4年4月開校】
福岡県	福岡市	福岡きぼう中学校【令和4年4月開校】